

令和3年度 第1回 金沢市歴史まちづくり協議会

日 時：令和4年2月16日（水） 13:30～15:00

会 場：金沢市役所 第一本庁舎4階 405会議室

出席委員：宇佐美委員、川崎委員、馬場先委員、源委員、山崎（達）委員、
山崎（幹）委員、竹内委員（代理：高橋氏）、藤村委員、
山下委員（代理：安氏）、山森委員、山田委員、坂本委員

事務局：歴史都市推進課 石浦課長、用水・惣構堀保全室 土田室長、
村井課長補佐、田丸係長、松村主査、大字主査
文化財保護課 景山係長

関係課室：文化財保護課 谷口課長補佐
観光政策課 飯田課長
都市計画課 村田課長補佐
景観政策課 本光課長
無電柱化推進室 西村室長

- 1 開会
- 2 議事
- 3 報告
- 4 その他
- 5 閉会

議事

1) 金沢市歴史的風致維持向上計画（第2期）における事業の進捗状況について

～事務局より説明～

（馬場先）

歴まち計画の制度上、事業を促進する区域として重点区域があるが、金石や大野など、重点区域以外の取り組みを国の計画の中で盛り込んでもいいのか。

（事務局）

重点区域は重要文化財や重要伝統的建造物群保存地区を中心としたエリアとなっている。制度上、本市が保全したい歴史的風致の範囲と重点区域として設定できる範囲に違いがあり、金石や大野、二俣等は重点区域の要件を満たさないため、範囲から外れている。

重点区域ではないため、歴まち計画による国庫補助事業対象にはならないが、保全したい歴史的風致の範囲であるため、進捗評価には、その取り組みを記載している。

（馬場先）

重点区域以外の事業はどのような財源で進めているのか。

（事務局）

市単独事業で進めているものもあるし、例えばこまちなみ保存事業の金石や大野地区であれば、歴史的観光資源高質化支援事業といった観光インバウンド系の補助メニューを使っており、使えるものは使いながら様々な事業を進めている。

(山崎(達)会長)

旧町名復活事業は住民の要望を受けてやることになると思うが、かなり大変な事業だと思う。市から働きかけて取り組む地域を選んでいるのか。

(事務局)

市の担当課で出前講座を用意しており、関心があるということで講座を希望された町会に伺っており、講座を実施した町会等には、その後の盛り上がりの状況などをフォローアップしながら、気運が高まった地域について事業を進めている。

(山崎(達)会長)

市として積極的にどんどん進めるのか。

(事務局)

住居表示法によって昭和 38 年から行われた住居表示変更から相当の年数が経過しており、今の町名になれた方が多く、旧町名を知らない市民が増えてきている。そういった状況もあり、復活できそうな町会とできそうにない町会に分かれてきているのが現状である。

議事について一同、承認

2) 金沢市歴史的風致維持向上計画（第2期）変更（案）について

～事務局より説明～

(藤村委員)

2 ページの関連計画のところで、金沢城跡保存管理計画となっているが、保存活用計画に改定したので、歴まち計画にも反映してもらえればと思う。

(事務局)

対応する。

(川崎委員)

木の文化都市・金沢創出モデル事業やまちなか辰巳用水修景事業が、歴史的街並みの保全に関する事業に分類されているが、木の温もりを感じる街並みの形成や用水の景観創出が保全の中に入るということで整理されているのか。

(事務局)

計画書の3章に4つの方針を示し、その方針の分類に従って事業を整理しており、無電柱化事業を始め、今回の2事業も含め街並み形成に関する事業は、歴史的街並みの保全に関する事業に分類している。

(川崎委員)

保全は凍結保存ではなく、手を入れながら良くしていくということなので、問題ないのか

もしれない。

(山崎(達)会長)

保全及び形成という表現もありなのかもしれないが、市の定義として保全に含むということであれば、本協議会としてはこれで了解とする。

ただ、一般市民に分かりにくいところもあるかもしれないので、今後、配意していただければいいと思う。

一同、承認

報告

1) 金沢市文化財保存活用地域計画の認定について

～事務局より説明～

(川崎委員)

文化財保存活用区域に原始のエリアがあるが、海岸線がこのエッジくらいに収まっていたということなのか。

(事務局)

今の海岸線より内側であるが、そういった港の管理施設が発見される遺跡が集積している。現在の海岸線にはなかったのかというと、砂地で遺跡が残りにくい環境のため、実際にはもう少し海側にもあるかもしれない。現在分かっている中でおよその範囲で括ると資料のようなエリアになる。

(川崎委員)

遺跡のポイントからエリアの境界を推定しているということでもいいか。

(事務局)

時代ごとに遺跡が展開している区域は変わってくるが、特に港湾地域については、古代の奈良から平安時代に本格的な施設が作られ始める。そういった主要となる遺跡が展開しているということでエリアを括っている。

(山崎(達)会長)

大野や金石、栗崎周辺は渚の線が何世紀かの間に後退しているのか。

(事務局)

金石エリアでは、金沢西警察署あたりに大規模な掘立柱を有する金石本町遺跡があるが、それが現在確認されている中では海岸線に一番近い遺跡となっている。

実際にどこまでが海であったのかを考古学の限られた発掘調査で確認することは現実的にかなり難しいと考える。

(山下委員代理 安氏)

当時の海岸線がどこだったかという問題と、海岸に港湾施設が作れたのかという問題は別で、おそらく原始、古代の港は海から川に入ってきて入り組んだところに作られたと思う。

その他（金沢市からのお知らせ）

○金沢市歴史的風致維持向上計画（第2期）中間評価作成について

～事務局より説明～

（竹内委員代理 高橋氏）

中間評価に係る評価軸や内容の詳細は決まっているのか。

（事務局）

国のマニュアルが整備されているので、それに従って進めていく。しかし、評価指標については例として示されているが、具体的にどの数字を用いるかといったことは認定都市で検討していくことになる。

（竹内委員代理 高橋氏）

評価指標となる数字などについては、県も協力することがあるということでしょうか。

（事務局）

市では庁内プロジェクトチームでそういった指標の拾い上げを行うことになるし、同時期に県やその他外部機関の持っている指標についてご協力をいただくことになると考えている。

閉会